

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年12月17日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	11月の価格情報				12月の価格情報		12月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1月の主産地	生育及び価格の1月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格					
		中旬	下旬		中旬	下旬				
葉茎菜類	キャベツ	72.93	69	69	72.93	63	・8,170t (113%)	愛知(58)、千葉(19)	愛知産及び千葉産は、天候に恵まれて大玉傾向であり生育も前進していることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、11月中旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、愛知産及び千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		76.91	72	73	76.91	67	・2,192t (85%)	愛知(57)、大阪(12)		
	たまねぎ	81.54	95	98	81.54	106	・6,554t (86%)	北海道(91)	北海道産は、収穫作業が終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっている中で、傷みが発生したことにより商品化率が低下したことから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		81.54	96	99	81.54	108	・3,019t (84%)	北海道(79)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.04	269	274	252.04	262	・2,391t (100%)	千葉(35)、埼玉(22)、茨城(18)	千葉産、埼玉産及び茨城産は、天候に恵まれ台風による影響も回復して順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産、埼玉産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		467.01	495	392	467.01	344	・180t (113%)	徳島(25)、奈良(13)、中国(12)		
	はくさい	42.34	43	36	42.34	36	・5,335t (89%)	茨城(88)	茨城産は、天候に恵まれて大玉傾向であり生育も前進していることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、10月下旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、茨城産の出荷が平年を上回ると見込まれることに加え、今後も暖冬傾向で推移すれば需要も伸びないことから、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		55.95	58	55	55.95	52	・1,723t (114%)	茨城(33)、愛知(14)、宮崎(13)		
	ほうれんそう	423.62	303	353	423.62	377	・918t (129%)	群馬(33)、茨城(32)	群馬産及び茨城産は、天候に恵まれて生育が前進していることから、現在の出荷は平年を上回っているものの、最近の気温の低下に伴い生育の前進傾向が緩むことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、10月下旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
		507.91	457	464	507.91	432	・339t (127%)	福岡(35)、徳島(34)		
	レタス(結球)	143.63	121	103	235.87	122	・3,527t (131%)	静岡(38)、長崎(17)、兵庫(11)	静岡県産、長崎産及び兵庫産は、天候に恵まれて大玉傾向であり、生育も前進していることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、11月中旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、静岡県産、長崎産及び兵庫産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		154.61	129	113	233.81	118	・1,199t (141%)	兵庫(40)、長崎(24)、徳島(17)		
果菜類	きゅうり	289.03	289	305	415.23	316	・2,670t (120%)	宮崎(41)、千葉(19)、高知(18)	宮崎産、千葉産及び高知産は、天候に恵まれて着果状況も好く生育も前進していることから、現在の出荷は平年を上回るものの、最近の気温の低下や曇天の影響により生育の前進傾向が緩むことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、10月下旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、宮崎産、千葉産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
		298.96	263	289	392.83	301	・863t (114%)	宮崎(42)、高知(20)、徳島(11)		
	トマト(大玉)	364.78	407	350	397.80	329	・2,913t (112%)	熊本(47)、栃木(15)、愛知(14)	熊本産、栃木産及び愛知産は、天候に恵まれて着果状況も好く生育も前進していることから、現在の出荷は平年を上回るものの、最近の気温の低下や曇天の影響により生育の前進傾向が緩むことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、11月中旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
		371.67	410	332	357.31	313	・1,075t (115%)	熊本(74)		
	なす	301.00	331	370	440.08	393	・749t (136%)	高知(86)	高知産は、順調な生育であることから、現在の出荷は平年並みであるものの、最近の気温の低下や曇天の影響により生育が遅延していることから、今後は平年を下回る出荷の見込み。 高知産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均並みの価格は、今後は平均を上回って推移する見込み。	
		263.21	341	364	406.14	383	・306t (140%)	埼玉(28)、高知(28)、熊本(18)		
	ピーマン	378.83	403	352	378.83	318	・909t (130%)	宮崎(49)、高知(22)	宮崎産及び茨城産は、天候に恵まれて着果状況も好く生育も前進していることから、現在の出荷は平年を上回るものの、最近の気温の低下や曇天の影響により生育の前進傾向が緩むことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、11月に入り出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
		371.29	359	312	371.29	307	・367t (133%)	鹿児島(34)、宮崎(31)		
	根菜類	だいこん	67.55	51	48	67.55	42	・5,931t (111%)	神奈川(58)、千葉(35)	神奈川産及び千葉産は、天候に恵まれて太物傾向であり生育も前進していることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、11月に入り出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、神奈川産及び千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、引き続き平均を下回って推移する見込み。
			76.48	57	52	76.48	48	・3,184t (115%)	長崎(25)、徳島(21)、鹿児島(18)	
		105.86	170	119	105.86	93	・5,014t (99%)	千葉(79)	千葉産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 暖冬傾向で推移する中、11月に入り出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
	104.49	149	123	104.49	115	・1,558t (94%)	鹿児島(47)、長崎(25)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生産状況及び価格見通し」における平均価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	1 1 月の価格情報				1 2 月の価格情報		1 2 月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 () 内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1 月の主産地	生育及び価格の1月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬				
		中旬	下旬							
いも類	さといも	232.02	241	237	232.02	272	・542t (98%)	埼玉(42)、千葉(23)		埼玉産及び千葉産は、夏場の高温・少雨や9月の曇雨天の影響から小玉傾向であることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		(104%)	(102%)	(117%)	愛媛(64)、中国(13)					
	ばれいしょ	228.44	287	276	228.44	323	・138t (63%)			北海道産は、収穫作業が終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。6月下旬以降の長雨・日照不足や7月中旬以降の高温・少雨の影響により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		(126%)	(121%)	(141%)	長崎(51)、北海道(36)					
92.33	113	113	92.33	113	・2,827t (77%)					
(122%)	(122%)	(122%)								
92.33	108	108	92.33	107	・1,142t (78%)					
(117%)	(117%)	(116%)								

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	1 1 月の価格情報				1 2 月の価格情報		1 2 月上旬の東京及び大阪市場の入荷量 () 内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1 月の主産地	生育及び価格の1月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	上旬				
		中旬	下旬							
野菜類	ブロッコリー	286.55	299	322	286.55	302	・1,008t (128%)	愛知(35)、香川(19)、群馬(13)		香川産及び群馬産は、天候に恵まれて肥大が進み生育も前進していることから、現在の出荷は平年を上回るものの、最近の気温の低下で生育の前進傾向は緩むことから、今後は平年並みの出荷の見込み。愛知産は、台風24号の影響で根傷みや欠株が発生していることに加え、一部に病害も発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 香川産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、愛知産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均並みの価格は、今後は平均を上回って推移する見込み。
		(104%)	(112%)	(105%)	徳島(36)、長崎(14)、鳥取(9)					
	357.11	341	365	357.11	329	・259t (122%)				
	(95%)	(102%)	(92%)							

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。

※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。